

1/30

落語の匠の話芸を堪能

第十六回ちくしの寄席

筑紫野市ふるさと親善大使の落語家、立川 生志師匠が出演する「ちくしの寄席」。生涯学習センターさんあいホールで、午前・午後の二公演で行われました。

午前に行われた「落語の楽しみ方講座」では、生志師匠が落語の用語や約束事を解説。おはやしの実演や粗忽家酔書（そこつやよいしょ）さんの紙切りの後、生志師匠が「看板のピン」「反対陣（ぐるま）」の二席を演じました。



筑紫野市ふるさと親善大使の立川 生志師匠

午後に行われた『ふるさと応援』落語会では「千早振る」「粗忽長屋」「文七元結（ぶんしちもっとい）」の三席。人情話や滑稽話など幅広く演じました。

また、この日は筑紫野経済同友会が「落語の面白さを知ってほしい」と市内の中高生を招待。中高生からは「初めての落語だったけど解説のおかげで分かりやすかった」「放送部なので、師匠の話術が勉強になった」などの感想がありました。



紙切りのリクエストは「『鬼滅の刃』のキャラクター」

2/15

占いの判定は1カ月後

筑紫神社粥炊祭

市無形民俗文化財、筑紫神社の粥占行事は、五穀豊穡、国内安全を願って粥を炊き、粥の表面に発生するカビを見てその年の吉凶を判定する行事で、200年以上前から行われていたとされています。

この日は粥を炊き、神殿に保管する「粥炊祭」が行われました。粥は東西南北（豊前、肥前、筑後、筑前）に区切られ、3月15日の「粥占祭」で、カビの生え具合を見て、それぞれの方角の吉凶を占います。



箱に入れられた粥は封をされ、神殿に保管されます

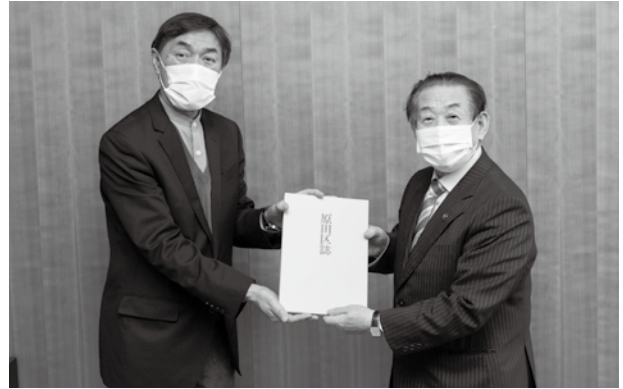
1/25

区の歴史を次の世代へつなぐ

原田区が「原田区誌」を市に寄贈

原田区の歴史をまとめた「原田区誌」を発刊したことを区長の山崎 淳一さんらが藤田市長に報告し、贈呈しました。平成24年に編さん委員会を立ち上げて以降、約50回の委員会を経て、昨年に完成しました。

山崎区長は「区の歴史が埋もれてしまわないように、記録を残しました。若い世代に引き継いでいけたら」と話していました。区誌は市民図書館や各コミュニティセンターで閲覧できます。



原田区誌を贈呈する山崎区長（左）